

慶良間諸島海域

(けらましょとうかいいき)

湿地のタイプ: サンゴ礁

位置: 北緯26度12分、東経127度16分(座間味島周辺)、北緯26度10分、東経127度20分(渡嘉敷島周辺) / 標高: 0m / 面積: 353ha (座間味233ha、渡嘉敷120ha) / 湿地のタイプ: サンゴ礁 / 保護の制度: 国定公園海中公園地区 / 所在地: 沖縄県渡嘉敷村、座間味村 / 登録: 2005年11月



渡嘉敷島西岸海域の阿波連海岸



座間味島海域

湿地の概要:

慶良間諸島は、沖縄本島の西方20～40kmにある渡嘉敷(とかしき)島、座間味(ざまみ)島、阿嘉(あか)島、慶留間(げるま)島など30あまりの小さな島々である。最大の渡嘉敷島で面積は1500ヘクタール。渡嘉敷村と座間味村の二つの村で人口は2000人弱。自然度の高い、日本でも有数の美しい海域である。

渡嘉敷島の西岸海域120ヘクタールと、座間味島と阿嘉島の間にある安慶名敷(あげなしき)島、嘉比(がひ)島、伊釈加釈(いじゃかじゃ)島などの無人島の周辺海域233ヘクタールの、二つの海域353ヘクタールが、条約湿地として登録されている。

サンゴ礁:

慶良間諸島海域の海中には、テーブル状、枝状、角状、塊状などの造礁サンゴが高い密度で分布し、248種のサンゴが確認されている。とくに渡嘉敷島西岸にはテーブル状、枝状のミドリイシが著しく発達し、

場所によっては90%以上の被度でサンゴにおおわれている。周辺海域はサンゴの幼生の供給源にもなっており、すぐれた景観ばかりでなく、学術的にも貴重な海域である。

サンゴ礁は熱帯雨林とともに生物種が豊富な生態系で、スズメダイ類やチョウチョウオ類、ベラ類など、サンゴ礁特有の、色彩豊かな多種多様な魚類が生息している。

エコツーリズム:

この海域は透明度が高く、気候は温暖で、水温も月平均値が20℃を下回ることがなく、ダイビングには絶好の条件をそなえており、年間10万人以上のダイバーがおとずれている。かつてオニヒトデの大量発生でサンゴが壊滅的な被害を受けたことがあり、地元の人々によって熱心に駆除がおこなわれ、保全対策が講じられている。冬季には、ホエールウォッチングもおこなわれている。

【造礁サンゴ】サンゴ(サンゴ虫)には、サンゴ礁を形成するものとしらないものがあり、サンゴ礁を形成するものが造礁サンゴである。造礁サンゴの体内には藻類の褐虫藻が共生し、彼らの光合成作用によって炭酸カルシウム(石灰)の分泌が促進され、サンゴ礁が形成される。造礁サンゴの代表がミドリイシで、群体形が多様でテーブル状や枝状、塊状など変化に富んでいる。



造礁サンゴ群落

●関係自治体

渡嘉敷村役場 Tel: 098-987-2321

<http://www.vill.tokashiki.okinawa.jp/>

座間味村役場 Tel: 098-987-2311

<http://www.vill.zamami.okinawa.jp/>

